

令和4年度 学校評価書

学校名:和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名:竹内伸之

目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成 ○平和を愛し、人権やルールを大切に作る人間愛に満ちた生徒の育成 ○運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成
--------	--

本年度の重点目標 ○開かれた学校 ○豊かな心の醸成 ○確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域との連携を図るため、教育活動を広報する。 ・生徒、保護者、地域の声を反映させ、特色ある教育活動を展開する。 ・全教育活動、教育場面を通して、自他の「命」を最優先して尊重する態度を育てる。 ・基本的な生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。 ・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。 ・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。
--	--

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策
安全教育・安全管理 夕暮れ時の事故が起りやすい時間帯に登校する生徒たちの安全教育として、登下校時の安全意識の向上・命の尊さについて生徒への声かけ等で常に意識するよう指導している。東南海地震等に備えた防災意識を向上させ、即時の判断力の向上にも取り組んでいる。また、安全に学校生活を過ごすために今年度も引き続き感染症予防にも取り組む必要がある。	生徒指導部と協力し、交通安全講話等の特設LHRを実施し、全校生徒に対して講話してもらった。また、常設LHRの時間を利用し、地震時の避難訓練とその後の津波時の避難訓練を同時に行い、避難場所の違いを生徒に指示誘導し、把握させる。併せて個人の判断の大切さについて理解を促す。 保健部と協力し、感染症予防として、平時における危機意識と日々の衛生管理の大切さを十分に理解するよう指導する。	新型コロナウイルス感染症予防を継続し、各種行事及び式典を安心かつ安全に執り行うことができた。生徒一人ひとりが、学校生活を安心・安全に送ることができるよう各分掌や管理職と情報共有を行い、学校全体で防災教育、コロナ対策等に取り組むことができた。	新型コロナウイルス対策を継続し、迅速かつ適切に対応することができるよう体制を整えていく。コロナ禍においても、生徒たちが心豊かな学校生活を送れるよう、学校行事等を創意工夫し、命の尊さ、自尊感情の向上、他者を思いやり行動する共助の心を育むことができるよう取り組む。	A	地域が育んだ豊かな人的資源を活かし、幅広い見識が習得できるよう学校行事等において創意工夫する。また、生徒たちが安心・安全な学校生活を送るために、危機管理、危機意識の向上への取り組みを継続して実施する。 定時制教育がより地域にわがしたのものとなるよう、ホームページ等を活用して、情報発信を行っていく。
生活指導 他人との接し方に課題を抱える生徒が見られる。自分の感情や考えをうまく表現できず、悩みを抱え込んだり問題行動に繋がってしまうケースもあり、教職員全体による細やかな支援が必要である。	生徒が抱える課題に対し、教職員と保護者、SCや外部機関等との連携を強め、多角的な視点から問題解決にあたるとともに、生徒自身のコミュニケーション能力向上への取り組みを行い、成長への手がかりとできるよう支援する。	生徒指導部や担任を中心として細やかな声かけ等を行った結果、教員の注意や指導が入りやすく、落ち着いた環境に近づいている。しかし、心身の状態により学校を休みがちになる生徒や、規範意識の薄い生徒もあり、このような生徒に対して、支援と指導を継続することが求められる。	生徒が教員に悩みを相談できるような場所をもうけ、安心して学校へ通うことができるような環境を整えていく。 基本的なルールをプリントなどにして配布、掲示し、生徒へ継続的に周知していく。	B	本年度の活動を継続しつつ、「改善充実策」に挙げた活動を行い、生徒の成長の一助となるよう取り組んでいく。 非行防止の取り組みとともに、悩みを抱える生徒に対するケアにも力を入れていく。
学習指導 高校入学まで不登校であったり、学校を休みがちであった生徒が依然として多く、適切な対応が必要である。入学後、学習に取り組むことに課題を持つ生徒もいるため、個々に対応した指導が必要である。また、高校入学時での基礎学力が身に付いていない生徒も多くいるため、生徒に対応した指導も必要である。	学び直しの観点から基礎学力の定着を目指して、「反復練習」「授業の工夫」を基礎とした授業展開を行いながら一人ひとりの生徒の力を伸ばす取り組みを進めている。また、少人数のクラス構成を生かし、個々の生徒とコミュニケーションを取りながら、生徒の関心・意欲を増進させるような授業展開を心がける。欠課時数が増加傾向にある生徒は、随時指導を行い、家庭と連絡を密にして、細やかな指導を行う。	各科目で、中学校までの既習事項等を含めて基本的な学力が着実に定着する授業を実施した。また、生徒たちが学習の楽しさや達成感を感じることができるよう心がけてきた。多くの生徒は、教員の授業に対する熱意を感じ、理解しやすいと感じている。夏季休業中に国語、数学、理科、社会、英語、商業の教科で補習講座を開講し、学習意欲の高い生徒にも対応した措置を行った。	引き続き、基本的な学力が定着するように努め、授業の展開方法の工夫やよりよい補助教材の作成に努める。生徒の個性の多様化、学力差が大きな課題であり、これら生徒一人ひとりが、積極的に授業に参加し授業内容を十分理解できるよう授業改善が必要である。また、学力の高い生徒や進路希望が明確な生徒に対応するため、授業以外で発展的な学習ができる機会を設ける必要がある。	A	生徒一人ひとりの学力に対応した学習指導が必要である。特に、基礎学力の向上が必要となる生徒は、欠課時数も多くなる傾向にあるため、基本的な生活習慣の確立と合わせて指導していく必要がある。また、学習意欲の高い生徒については、進路保障の観点から、長期休業中の補習講座を継続し、個々の生徒が必要な学力を身につけることができる環境を整える必要がある。
進路指導 年度当初の調査では、卒業予定者6名のうち、4学年の4名はいずれも就職希望、3学年の2名は未定となっている。就職希望者のうち、学校斡旋を希望しているのは1名のみで、他は現職の延長や縁故就職を想定している。学校斡旋就職希望生徒や進学希望の可能性のある生徒に対しては、早期に職種や校種等を選定させ、保護者・担任とも連携して進路関連行事への参加を促す。	担任を通じて、各種情報等を積極的に提供するのに加え、今年度よりキャリア・パスポートも活用する。 進路実現のためには何が大事か、今何をなすべきか、自分の将来像等について、包括的・継続的なワークと思索を行う。 この活動には進路LHRに加え、クラス独自LHRの時間や三者面談の場も想定している。	キャリアパスポートの記入に関しては、1・2学期進路LHRに加えてクラス裁量のLHRの一部活用して実施した。 さらに2学期からは、民間の就職活動支援会社のWeb経由サービスを導入し、生徒各自のスマートフォンから適性検査の実施とそれに基づいた進路情報検索ができるようにした。 紙ベースとICTを併せた進路指導に取り組むことができた。	進路決定以前の段階で課題を抱える生徒に対しては、外部機関として若者サポートステーションWith You を担任を介して保護者に紹介している。引き続き外部機関との連携及び保護者への広報に努める。 外部機関から講師を招いての活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から控えていたが、状況を見て再開の方向で検討する。	B	キャリア・パスポートへの取り組み(学習活動の振り返りと将来展望の記載)を一層活性化させる必要がある。 そのためにも、ICT活用によって文章記述の負担を軽減する。

学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策及び南海トラフ地震に備え、一人ひとりが危機意識を持つ事で、異常が発生した時に速やかな対応が可能となるため、常に意識を持つ教育は継続して欲しい。 ・最近飲食店での迷惑行為をSNSに投稿し炎上する事案があった。迷惑を被った店舗のみならず、行為者の素性が晒され所属する学校にまで累が及ぶ事例をよく目にします。犯罪行為を起こさないよう、また、巻き込まれないよう、生徒に指導を行っていただきたい。 ・登下校時の安全教育、自転車及び原付の運転マナーの指導を引き続き行って欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、生徒同士が風通しの良い環境づくりは様々な活動を行うことで、コミュニケーションも図られると思いますので、引き続きいろいろな行事を通じて、コミュニケーションの場を提供願いたい。 ・生徒の悩みに寄り添い、親身になった生徒指導が行われている。 ・生徒に対する指導において、先生方の苦悩が見受けられる。生徒のために悩める学校こそが生徒と真剣に向き合っていると思っています。先生方の苦悩はこれからも続くと思いますが、今後も生徒に向き合った指導をお願いします。 ・生徒一人ひとりの個性を理解し、今後も不登校経験者が毎日登校できるよう取組を継続して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器等に接することで、慣れや面白さも感じられると思います。今後もICTツールの環境充実を図っていただきたい。 ・生徒アンケートにおいて、「わかりやすい授業84.1%」「教え方に工夫している82.9%」と評価が高く、熱意ある授業が行われている結果だと感じた。中学校での学習の学び直し等入れ、学力の定着に努力されていることは良いことだと思った。 ・ICT機器を活用し引き続き、生徒の学習意欲の向上を図って欲しい。 ・検定試験1級三冠表彰を目標にし、資格取得することで達成感充実感を引き続き生徒に味合わせて欲しい。 ・生徒が主体的に取り組める工夫がなされている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した訓練を行うことで、進路の幅がより拡充されると感じます。 ・スマホを活用し、進路情報を入手するシステムは、子供たちにとっても効果的な取り組みであると思う。 ・生徒一人ひとりの寄り添った指導を継続して行って欲しい。